

学位被授与者氏名	柴 奈保子（しば なほこ）
論文題目	社会運動の継続とその要因 上関原発建設に反対する祝島島民の事例から
論文審査結果の要旨	<p>社会運動論の先行文献を丹念に拾ってきてはいるものの、詳細な理論的検討がまだ深くされてはいない。しかしながら、島民とともに生活を実践し、島民の視線から分析する、参与観察的な手法を用い、多くの労力と時間を費やしたフィールドワークを行っていることは大いに評価できる。論文の中心となっているフィールドワーク調査で得られた知見は社会学にとって学問的に大変貴重なものである。</p> <p>「新しい社会運動」をどう定義するかの議論が大ざっぱではあるが、フィールドワークからは、この島の運動が少なくとも生活の基盤となっている相互扶助の関係を守る運動であることはよく分かる。また、運動の過程でこの相互扶助関係が閉じられたものから開かれたものへと変わっていった様子もわかる。また現在では、この関係をUターン者、Iターン者が作り上げている様子もわかる。このような「開かれた相互扶助関係」が運動の源泉になっていることはやはり「新しい」ものであることがわかる。</p> <p>理論的枠組みの詰めは甘いものの、それに勝るフィールドワークの力が認められる。反対運動の島として研究者の注目を浴びながら、今まで誰も詳細な調査をやれずにいた。祝島で島民に受け入れられながら、詳細な調査ができたことは、賞賛に値する。学問的にも大変価値があり、学会発表をすれば話題を呼ぶであろう論文である。</p> <p>平成25年2月19日（水）6限7限に、北九州市立大学北方キャンパス4号館3-301教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士（人間関係学）として十分な内容であると判定した。</p>